

令和2年度第1回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	令和2年11月13日（金）15時00分～17時20分		場所	1号館3階会議室
出席者	委員出席者 7名 [委員長]小川 真実 [副委員長]根本 正一 [委員]飯塚 香奈子、稲垣 かおる、立崎 貴子、藤本 健太郎、古本 賢隆(五十音順)			
	事務局	(企画政策部) 岩井部長、上野企画政策課長、大久保副主幹、松本主査		
	その他	傍聴0名		
議事	<p>○議事に先立ち、委員の委嘱状交付</p> <p>(1) 委員長及び副委員長の選任</p> <p>(2) 会議及び資料の公開について</p> <p>(3) 佐倉市行政評価の概要について</p> <p>(4) 佐倉市の現状と課題について</p> <p>(5) 第5次佐倉市総合計画及び第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について</p>			
概要	<p>◆ 行政評価懇話会の役割、佐倉市の現状と課題、評価対象である第5次佐倉市総合計画及び第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について、事務局より説明があった。</p> <p>◆ 来年度行政評価を行うテーマについて、意見交換を行った。</p> <p>候補としては、市民意識調査の結果により市民の満足度が低く、第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策とも重複する「子育て支援」「学校教育」「高齢者支援」、また新型コロナウイルス感染症の影響や、成田空港に近い立地を生かした「産業振興」「観光振興」等が挙げられた。そのほか、佐倉市の財政状況が悪いことについての附帯意見を付す必要性についても意見があった。</p> <p>◆ 次回の懇話会で各施策のKPIの進捗状況等も確認の上、評価するテーマについて決定。</p>			
内 容				
<p>◆議事</p> <p>(1) 委員長及び副委員長の選任</p> <p>(事務局) 佐倉市行政評価懇話会設置要綱第4条に基づき、委員長及び副委員長は、会員の互選となっている。互選をお願いしたい。</p> <p>(委員) 事務局の案はいかがか。</p> <p>(事務局) 事務局としては、これまでの懇話会において委員長は大学関係者、副委員長は行政関係者に就任いただいたことから、委員長は、千葉大学大学院の小川委員に、副委員長は千葉県印旛地域振興事務所の根本委員をお願いしたいと考えているが、いかがか。</p> <p style="text-align: center;">〔「異議なし」との発言あり〕</p> <p>(事務局) それでは、委員長に小川委員、副委員長に根本委員を選任する。</p> <p style="text-align: center;">〔正・副委員長、正・副委員長席へ移動〕</p> <p>(委員長) 専門は会計学だが、近年は地域資源を掘り起こすような分野を研究しているところ。委員長として精一杯努めたい。</p> <p>(副委員長) 委員長を補佐していきたい。</p> <p>(2) 会議及び資料の公開について</p>				

(事務局) 第1回の会議において、「会議及び資料の公開」に関する決定をすることとなっており、審議いただきたい。審議会等の会議は、佐倉市情報公開条例の規定により原則公開となっている。当懇話会の会議についても原則公開としてよろしいか。また、会議録は、会議終了後事務局で作成し、各委員に確認の上確定し、速やかに公表したい。これまで同様、要録としてよろしいか。

(委員長) 会議及び資料の公開について、意見はあるか。

[意見無し]

(委員長) 会議及び資料は、原則どおり公開とする。

(3) 佐倉市行政評価の概要について

(事務局)

[資料1～4により、佐倉市の行政評価制度、行政評価懇話会の役割等について説明]

(委員長) 事務局からの説明に質問はあるか。

[意見無し]

(4) 佐倉市の現状と課題について

(事務局)

[資料5及び第5次佐倉市総合計画書により、佐倉市の現状(人口減少等)と今後に向けた課題について説明]

(委員長) 佐倉市の財政状況について調べさせていただいたが、佐倉市は、財政力指数は高いため一見すると財政的には余裕のある団体に見えるが、財政調整基金をかなり取り崩されていて、単年度収支は4年連続赤字という状況。そういった苦しい財政状況の中で、第5次佐倉市総合計画の施策を進めていく必要があるとの理解でよろしいか。

(事務局) 財政状況については、昨年度の台風と今年度の新型コロナウイルス感染症に対する対応の中で、かなり基金を取り崩してなくてはならない状況だったということもあり、来年度の予算編成についても、厳しい状況。そういった中で第5次佐倉市総合計画の施策を進めなくてはならないという状況であり、委員長の言われるとおり、厳しい状況にある事は重々認識して進めていきたい。

(委員長) 財政調整基金の取り崩しについては、最初は少ない額を取り崩した後、最後に多額を取り崩すと言うことが近年続いている。財政状況についても正しい認識を持っていただいた上で、総合計画の施策や事務事業についても我々は評価していかなくてはならないと考えている。

(5) 第5次佐倉市総合計画及び第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について

(事務局)

[第5次佐倉市総合計画書及び第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略、人口ビジョンにより、第5次佐倉市総合計画の重点目標及び施策体系、計画策定に当たって意見聴取した市民意識調査の内容、第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標及び施策等について説明]

(事務局) 次回の懇話会で主に審議をいただくが、来年度評価を行う上で、全ての施策を取り上げることは時間的に難しいため、第5次佐倉市総合計画の各施策の中からテーマを2つ程度に絞り、評価していただくことを想定している。第5次佐倉市総合計画の指標のうち、重点目標である指標と、第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の指標と重複しているものが多くあり、事務局としては、この重複している指標の施策を、評価のテーマとしていただくことが望ましいと考えているが、その点も含めて、評価を行うテーマについて、委員の皆様のご意見をいただきたい。

(委員長) 最初に確認させていただきたいが、総合計画の策定前に行った市民意識調査による市民の方々の要望がある一方で、重点目標があり、重点目標の方はどちらかというと市の方で考えている目標、という理解でよろしいか。

(事務局) 市民の皆様から重要であるご意見をいただいたものに加え、行財政運営の健全化など、市民の皆様からはわかりづらい、市職員の中で考える重点事項について、重点目標に加えている。

(委員長) 両方を突き合わせて見ると、市民意識調査では交通環境や高齢者福祉、子育て支援などが出てきているようだが、重点目標では市民協働や健康寿命の延伸などが出ており、また行財政改革の話も先ほど出ている。うまく合うものを次回暫定的に取り上げていけば良いのではないかと思う。

交通環境の話は、この懇話会で取り上げなくてはいけないことなのか、それともほかでも審議されているのか。

(事務局) 交通環境については、所管する都市計画課の方で地域公共交通会議という審議会を別に持っており、そこで主に審議をいただいている。行政評価懇話会で取り上げても問題ないが、その審議会は地域公共交通だけを取り扱っているということはある。

(委員長) 交通環境を当懇話会で取り上げないにしても、市民の方々の思いや意見が市役所の中で議論される場が他にあるという理解で良いか。

(事務局) はい。

(委員長) 私は財政状況については会計学者としても興味があり、附帯意見として入れさせていただければありがたいという思いがある。一見豊かに見える佐倉市が、実は厳しい状況であったことが私の中では衝撃的であった。行政評価懇話会の立て付けを考えたときに、行政評価は内部の行政評価委員会の検討を受けた後に外部の評価を受けるものであるのだから、財政課や内部の人たちがどう考えているのか、と思う。

(事務局) 財政状況が悪い理由として、一つには、予算規模が大きな事業は事業を発注するためにある程度の予算を確保し、入札執行後にその残額が翌年に繰り越されると言うことが通常だが、ここ数年の台風や自然災害による災害復旧のため、その執行残について大きく戻せない状況となったことがある。あともう一つは、入札制度において制度の見直しを行ったことが要因にある。

先生のご指摘があったとおり、財政状況を立て直さなくてはいけない中で、一方では自然災害が立て続けに起こるかもしれないため一刻も早く復旧しなくてはいけないという状況もあった。令和3年度の予算編成に当たってマイナスシーリングの実施や、マイナス思考だけでなく新しく歳入を稼ぐ方法についても取組みを進めようということで、ふるさと納税型クラウドファンディングなどに着手したところ。

(委員長) 赤字が続くと市民生活にも影響が出るため、その検討状況はどこかで知りたいと思う。それでは、来年度の評価について、総合計画や総合戦略等をふまえた上で、委員の皆様から評価のテーマを何とするか案を出していただきたいと思うが、いかがか。

(委員) 市民意識調査での満足度の結果について先ほど説明があったが、この内容は佐倉市民が感じているものであって、佐倉市へ移り住みたい人をもっと増やしたいというのであれば、市外の人が佐倉市に何があれば来たいと感じるのか調べるなど、これまでとは別の視点が必要なのではないか。また、財政状況が悪いとの話があったが、ふるさと納税でかなり収入を増やしている自治体もあれば、減収となっている自治体もあり、佐倉市の状況について聞いてみたい。

(委員) 人口減少に対してどのように対応していくかが特に課題とのことだったので、やはり子育て支援や高齢者支援、など人口増につながるものや、雇用の確保などが重要かと思う。事務局の説明があったように、重点目標や総合戦略と重複する施策から選ぶ方向で良いのではないか。

(委員) 事務局から説明があったのは既存の市の課題で、現に対応が迫られているコロナ対応の話がなかった。コロナにより変化を求められており、民間も市も、収入をいかに増やすかもっと本気で考えていく必要がある。佐倉市は歴史や文化を掲げてきているが、それは過去から作られたものであり、今からそれをどう生かしていくかが大事。交通網、特に高速ICや、駅の整備は重要でそれを活かした観光ビジョンが必要。また、印旛沼や川をいかに活性化していくか。もう少しアクティブな、今に合う市のビジョンを示してほしい。

(委員長) コロナのもとでも経済を動かしていく必要があり、高速や駅を活用して観光や産業の振興を図ることも重要。

(委員) まちづくりは長期スパンで臨むべき。財政は健全でなくてはならないが、街が死んでいけば財政上の収入は入ってこない。おそらくは、仕事をつくるのが一番ではないか。佐倉市は都内や空港からのアクセスなど地の利はいい。金融の目線としては、第3工業団地を拡張すれば企業はたくさん来る

ように思う。また、住宅を開発すれば空港という巨大な就労人口を確保できるのではないか。長期スパンになるかもしれないが、そういったことにより将来的に財政の健全化を確保できるのではないか。民間の活力を利用しないと、行政だけでは限界がある。

(委員) 昨年度の行政評価においては、まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPIが未達のものについての評価を行った。KPIの進捗が悪いものについて、この会で解決を図っていくべき。事務局から示されたように、総合戦略等と重複するものの施策が良いのではないか。

(事務局) 今回の懇話会の資料では、各施策のKPIの進捗状況についてはお示ししていないが、次回の懇話会でお示しし、どの施策の進捗が悪いかも含めて、評価テーマを決めていただくことを考えている。

(委員長) テーマを決めるに当たり、市民の方々の意見は無視できない。一方で委員からご意見があったように産業振興や観光振興も重要。スケジュールの都合もあるが、事務局としてはどう考えるか。

(事務局) 産業振興等は重要な課題だが、コロナ後の対応、というところでは実績値などの数値をお示しすることが難しい可能性はある。

(委員) 私が言ったコロナというのは、今までは考えられなかった問題を、コロナにより逆転して考えられる可能性があるということ。既存のものだけでなく、発想を転換し、新しいものを取り入れていく必要がある。行動を起こさないと、財政状況は良くならない。

(委員長) コロナにより働き方改革も求められており、リモートワークやオンライン会議も進んできている。それにより行政の効率化が図れるということもある。指標として示せるかという課題はあるが。

(事務局) コロナ後どうだったかという数値等は示せないとしても、例えば小売業者が減少しているなど産業振興の全体的な数値や資料をお示しする中で、コロナ後の発想の転換なども含め、ご意見をいただくことはよろしいと思う。

(委員長) 総合計画を作ったときにコロナの話はまだ出ていなかったもので、評価するに当たり難しい部分もあるかもしれない。取り組みやすいものとすれば、子育て支援は次の会議には間に合いそうな印象はあり、私自身にとっても重要な課題だが、例えば、子育て支援と学校教育などは、小1問題と小4ショックというふうに教育現場ではいうが、一連のつながった取り組みはできているのだろうか、と思う。子どもが成長する上で、そのライフデザインに対してきめ細やかな対応が市はできているのか評価できれば、市外から人を呼び込むような施策にもつながるのではないか。他の自治体を見ても、学校教育と子育ては別々に議論している感があるが、一人のライフデザインと考えたときには連続性があるものだから、子育てと学校教育の両方に取り組むのも面白いと思う。

(事務局) 市の方で子育て支援という場合、一般的には就学前の児童に対するもの。ただ現実の生活においては、小学生になっても中学生になっても子育ては続いていく問題なので、市の担当部署は異なるが、連続的な観点で評価いただくのも良いと思う。

(委員長) 佐倉市は成田空港とも近いが、2027年頃に離発着がかなり増えることに対して、具体的に何かを行う計画はあるのか。

(事務局) 具体的に、住宅地を開発したり、第3工業団地を拡張する等の予定は、現在のところない。圏央道ができて立地の面からは他の自治体と競合している状態であり、現時点では第3工業団地については、企業を増やすというよりは、現存企業が撤退をしないよう、設備投資に対する補助などの取り組みを進めているところ。成田空港に関しても、これから検討していかなくてはならない。

(委員長) 大学のキャリア教育で、県内の市長や民間企業の社長の話を聞く機会が多く、学生の参考になっている。成田空港の副社長にも登壇いただいたことがあり、成田空港としては観光資源を特に求めているとの話だった。佐倉市も城下町としての歴史があり、豊富な観光資源があるがそれぞれが点在しているため、それぞれをつなげる取り組みをしていけば、外国からの観光客にもっと訪れてもらうポテンシャルはあるのではないか。成田空港を訪れて話をするのもいいと思う。

(事務局) 観光資源について、佐倉ふるさと広場でこれまでは借りていた土地を取得して整備する計画があり、今年度予算で測量費を計上している。計画が順調に進めば、成田空港と連携し、観光客誘致に向けて進めていきたいと考えている。その面からご提言をいただくことも可能。

(委員長) 委員の皆さんのそれぞれの立場や見識から、様々なアイデアが聞けたかと思う。その中で

も全てのテーマを取り扱うのは総論的な内容になってしまうので、テーマを絞るのは事務局にある程度委ねてもいいのではないか。ここまでの議論で、スケジュール的に間に合うようなものは、どのあたりか。

(事務局) 今日一番ご意見をいただいたのは、産業振興の部分。これについては、観光まで含めるかという問題もあるが、それは次回ご検討いただければと思う。それ以外のものでは、子育て支援を学校教育まで含めてテーマとする、ただ子育て支援は範囲が広いのでどこまでを扱うのかは次回ご意見をいただくか、次回の前に関心がある内容を各委員からお寄せいただくなど、テーマを2、3に絞る案を事務局に考えさせていただければと思う。

(委員長) 高齢者支援も市民の皆さんの意見としてあるので、加えた方がいいかと思う。

(事務局) まとめると、子育て支援、高齢者支援、産業振興の分野が候補としてご意見があった。

(委員長) 今日の段階では、ここまでのまとめでよろしいか。

そのほか、私としては、冒頭に申し上げたとおり、財政事情について大丈夫かという思いもある。

(事務局) 財政事情については、評価のテーマとはしないとしても、いずれかの回で財政部局からの話を聞く機会は設けたいと思う。

(委員長) まずは状況を正確に把握することかと思う。

そのほか、委員の皆様から、何かご意見はあるか。

[意見無し]

(委員長)

それでは、本日の議事はこれで終了する。

(以上)